

事業計画書

16

| | |
|-----|--------------|
| 事業名 | まちづくりコラボサロン |
| 団体名 | まつどサロンネットワーク |

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

〈目的〉

生活上の課題をもつ、それを支援する人たちの会あるいは社会的・地域的に問題を解決したいと考える人同士の会などと、市内でサロンや居場所的な場を作っているところを結びつけて人の連携を作り、多くの人が集まってコミュニケーションを図り、それぞれが活躍できる場を増やすことで、地域の活性化を図る。

具体的には下記のようなものである。

- ①生活上の課題や悩みをもつ人たちを、同様の状況にある人たちや、それに対して理解ある人たちとつなげ、課題解決のための新しい動きを生み出すための支援、アドバイスの場を作る。
- ②地域資源としての場所（施設、提供される空間）、人材、技能、などを有効に活用し、地域に住む人たちが自ら人のつながりを作り、地域の活性化につなげていくきっかけを作る。
- ③社会に対して、何か自分が役に立つことをしたいという人たちが同様の意欲ある人たちと出会い、意見交換をし、連帯感を持つことで、その「思い」が活動へつながるための支援をする。

〈課題の現状〉

生活上の課題を抱えている人たちはなかなか社会に出ていきにくい実情があり、その受け皿的なものが地域にはなるべく多くあったほうが良いと思われるが、相談に対して1対1でアドバイスをするだけでは、同様の人たちと出会うチャンスは乏しく、人間関係を作るには至らず、活動意欲の継続も難しい。

また、サロンが必要な人、課題を抱えている人のためにサロンを開きたいと考えている人、社会のために役に立ちたいと考えている人が、それぞれ存在しているにもかかわらず、その人たちが出会う場が少ないか、あっても新しい動きを作るまでには至らない。つまりそれぞれ意思があっても、それが、生かされないままになっていることが多い。

〈効果〉

- ・孤独に生活上の課題を抱えている人たちが外に出て同様の人たちと出会い、話し合うことで勇気づけられたり、前向きに問題を考えていくきっかけを作る。
- ・地域の課題に対して受け身でなく、積極的な社会や地域への参画のきっかけになる。
- ・居場所づくりということの事例を示したり、課題を抱えた人たちの会への支援を進めることで社会のもつ問題の発信になる。
- ・市内の活動の会と、サロンの居場所のネットワーク作りによって、サロンの活性化を図り、課題解決の場を増やしていくことが可能になる。

2. 申請理由

定期的に行う会議の中でゲストスピーカーの推薦や要望があれば、招聘して、そのテーマを囲んで話し合う場、出会う場をつくる。テーマに関心のある人たちに来てもらい、会や活動を作るきっかけになりうるものとして開催する。予定では年8回ほどはミニ講演を開く予定としている。

また、春に立ち上げイベントを行い、年度末近くには成果発表会を行いたいと考えている。

これらの講師の謝礼などは、会員をこれから増やしていく現段階では補うのは無理なので、その部分の助成と、もう一つは、ネットワーク作りを大きな目標としているので、そのための広報に関しての部分の助成をお願いしたく、申請する。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

〈事業の内容と実施方法〉

①定期的な会議の開催

月1回～2回の会議を定期的で開催する。(年間で通算20回を目安とする)

当面の内容は自分の技能や思いを活かしたい人、場所などの提供のできる人や団体、などが事業や活動を育てるにあたってのヒントやアイデア、持てるものを持ち寄っての活動の発展につなげるための会議とする。

場所は公共の施設を中心とした基本の場所を定めるが、会員の中での提供や開催場所の希望が出てきたときには検討して場を移して行う。

年20回の会議の中で最高8回程度、会員の中で参考にしたいと思う講師の希望があればゲストスピーカーとして招聘する。関心のある人が出会って会を作るきっかけとなることを期待している。

②イベントの開催

a. 立ち上げイベント

会の活動をアピールするために5月頃に立ち上げ記念イベントを行う。

「まちの中でいかに市民の力を発揮するか」、または「個人が持てる力を公共のために活かすことは生きがいに通じる」というような趣旨に沿った内容の講演会と、パネラーなどをよび、パネルディスカッション的なものをおこなう予定。

b. 成果発表会

年度末(1月～3月)に4月以降の活動の総括となるような、活動の成果の発表イベントをおこなう。

③会員への広報

会員には会議の進捗状況、提案の事例などを情報として流す。

④情報のネットワーク化

年度の後半に、会議のつながりから生まれた会、そのほかの活動事例、サロンや居場所の情報などをネットワーク化につなげるため、冊子を作製して配布、HPでも広報する。

〈スケジュール〉

H22年4月～H23年3月

通常会議（月1回～2回 20回程度）

- うち最高8回までゲストスピーカーを招聘してのミニ講演会を中心としたもの
- H22年5月 立ち上げ広報イベント開催
- H22年9月～H23年3月 HPなどの一般会員に向けて活動をアピールするためのHP立ち上げ 活動の内容などを冊子にまとめたものを配布、広報体制を整える。
- H23年1月～3月 成果発表イベント開催

4. 事業成果の活用と将来展望

〈事業成果の活用〉

生活の中で人が求めているものを、会や集まりとして形にすること、さらにそれを社会に発信することで、市民個人が抱えている課題、悩みを単なる個人の問題とするのではなく、共通の社会や地域の課題としてとらえなおして考える機会とすることができる。

なおかつ居場所的なもの（サロンなど）や集まりや活動を作ろう、という機運を高めて多くの人が出会い、コミュニケーションをとる機会を作り、まちと人の活性化につなげることができる。

また多くの立場の人の会と居場所にできる場の情報を冊子にまとめて配布したり、発信することで、地域に参画する人を増やし、問題に取り組んだり支援しようとする人たちを増やす。

〈将来展望〉

将来的に会議は（頻度は分からないが）定期的で開催していけば、「人と場を結ぶキーステーション」として、活動の発展へのヒントをもらえる場として、また、新しい出会いの場として、まちの市民活動の支援のひとつの場になりうると思われる。

出来上がったネットワークは、発信を継続していけばさらに大きな活動を生む可能性がある。

事業の予算計画書

【収入】

| | (自己資金) | 金額 | 積算内訳 |
|-----|----------------|-----------|--|
| 申請者 | 会議参加費 | 60,000 円 | 20 回×15 人×@200 円 |
| | イベント資料代 | 55,000 円 | 5 月イベント @500 円×80 人=40,000 円 成果報告会 @300×50 人=15,000 円 |
| | 自己資金合計 (a) | 115,000 円 | |
| 市 | 助成金申請額 (b) | 100,000 円 | |
| | 収入合計 (c) (a+b) | 215,000 円 | |

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

| | 項目 | 金額 | 積算内訳 |
|--------|---------------|----------------|---|
| 交付対象経費 | 会議会場費 (20 回分) | 40,000 円 | @2,000 円×20 回 |
| | イベント会場費 (2 回) | 10,000 円 | @5,000×2 回 |
| | 印刷費 | 31,000 円 | 広報チラシ、ポスター作成 |
| | 講師謝礼 | 94,000 円 | @3,000×8 回 (ミニ講演会) 30,000 円 (成果発表会) 40,000 円 (立ち回りイベント) |
| | 消耗品費 | 20,000 円 | 会報印刷、インク代、消耗品 |
| | | 対象となる経費合計額 (d) | 195,000 円 |
| その他 | その他経費合計額 (e) | 20,000 円 | 会議の茶菓、お茶代 @1,000 円×20 回 |
| | その他経費合計額 (e) | 20,000 円 | |
| | 支出合計 | 215,000 円 | |

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。